

常総市 未来への財産

本市には、自然、歴史、文化など多くの分野で、県内外に誇れる素晴らしい宝がたくさんあります。坂野家住宅、長塚節生家など、未来へ残したい地元の財産を紹介します。



常総フィルムコミッション

映画「土」主演
女優 風見章子さん



本市で撮影された映画「土」は、私のデビュー作です。10代の頃の作品ですが、撮影当時は監督さんに厳しく演技指導していただいたことを思い出します。この作品に出演できた経験が、今の私につながっているとと言えます。また、地元のかたがたにも本当にお世話になりました。映画やドラマのロケ地として、常総フィルムコミッションが今後ますます発展することを願っています。



2003(平成15)年に設立された常総フィルムコミッション。映画やテレビドラマなどのロケを誘致し、年間100本前後が市内で撮影されています。2013(平成25)年に撮影1,000本に到達しましたが、2015(平成27)年9月の水害で一時的に足踏みました。フィルムコミッションの再開とともに、撮影誘致は順調に回復してきています。市が市内ロケ第1号と認定しているのは、本市出身の歌人、小説家、長塚節原作の映画「土」【1939(昭和14)年】

累計1,100作品以上。 観光振興の新しい風

本市は都心からも近く、美しい田園風景や鬼怒川、小貝川、菅生沼などの自然豊かな土地です。さらに坂野家住宅や二水会館などの歴史遺産から青少年の家や市民福祉センターふれあい館などの市の施設までさまざまな撮影に対応できる施設が数多く存在しているので、毎年多くの映画やドラマのロケ地として活用されています。また、常総フィルムコミッション設立以来、なくて

はならない重要な存在となっているのが、映画やドラマなどの撮影に協力するエキストラです。市民に広くエキストラへの登録を呼びかけ、それに応じた人々が映画やドラマにエキストラとして出演し作品を盛り上げています。ロケーションを誘致する常総フィルムコミッションとそれを支える市民の協力が、本市を舞台とした数々の素晴らしい作品が生まれる原動力となっています。

エキストラ
大川 武彦さん

演劇の経験を生かしたくてエキストラに応募しました。普段の生活では経験することのできない体験ができたり、新しい友達ができたりと世界が広がりました。今では大切な趣味の一つになっています。



エキストラ
篠崎 敏子さん

刑事ドラマの刑事や医者、学校の先生、時代劇など非日常のさまざまな経験ができるのが一番の魅力ですね。2009年に始めてから42回ほど映画やドラマに出演しました。皆さんもぜひ挑戦してみませんか？





水海道風土博物館 坂野家住宅

坂野家住宅は1968(昭和43)年、主屋と表門が国の重要文化財に指定されました。屋敷面積は約1ヘクタール。1989(平成元)年、坂野家から市へ寄贈され「水海道風土博物館」となりました。

江戸中期の豪農屋敷 映画やドラマの撮影も盛ん

屋敷面積約1ヘクタール、周辺の山林を含めると野球場2つ分程の広大な敷地面積を誇る坂野家住宅(大生郷町)。大生郷地区に土着したのは約500年前。近世、地域をまとめる豪農でした。本来は武家屋敷に設けられるという表門(薬医門)からも、坂野家の格式の高さがしのべれます。豪壮な造りの総茅葺の主屋は、土間部、座敷部、居室部に分かれ、「部戸」や欄間など意匠を凝らした細工が施され、当時の豪農

住宅の貴重な遺例となっています。主屋西側の瀟洒な造りの書院「月波楼」は、江戸後期から明治にかけて文人墨客のサロンとして利用され、優れた作品の創作活動や交流の場となりました。さらに屋敷を取り巻く雑木林や竹林、梅林、復元された中庭などは、四季折々の美しい里山の風景を楽しむことができます。現在は映画やドラマのロケ地としても使われるなど多くの人に親しまれるスポットになっています。



当住宅は当時の生活をうかがい知ることのできる貴重な建物です。本市の宝として大切に受け継いでいきたいですね。また、より多くの人に知ってもらうためにもイベントなども開催していきたいと思っています。

水海道風土博物館館長 坂野家住宅
館長 堀込昇さん



水海道千姫まつりと弘経寺



観光大使として、いろいろな場所で本市の魅力をアピールし、子どもからお年寄りまでさまざまな年代の方々と接することができました。そのふれあいの中で、私たちも成長することができたと思います。千姫のお墓にも行って、その波乱万丈の生い立ちも学びました。



「千姫さま御一行 常総ご回遊」での千姫さま

第15代観光大使
千姫さま
松崎美紀さん
砂長美和さん
高野万千佳さん



くぎょうじ 弘経寺ゆかりの千姫 華やかな時代絵巻

水海道千姫まつりは、江戸幕府を開いた徳川家康の孫娘である「千姫」の墓が弘経寺にあることを御縁に、まちの活性化を目指して2001（平成13）年に始まりました。常総市の春を告げるイベントとして、桜の花が咲き誇る4月上旬に行われますが、これは千姫さまの誕生日が4月11日であることに因んでいます。まつりの一番のイベントは「千姫さま」に扮した観光大使がまちをパレードする「千姫さま御一行常総ご回遊」です。優雅な調べから勇壮な雰囲気へと変調するオリジナ

ル曲「千姫はなものがたり」にのせて、時代衣装を身にまとった御一行が、華やかに水海道地区の大通りを練り歩きます。

千姫さまの菩提寺でもある弘経寺（豊岡町）は戦国時代に焼失していますが、1629（寛永6）年に千姫の寄進により再建されています。境内で千姫まつりと同時に開催される天樹祭は、寺宝として大切に保管される千姫さま遺愛の品々の展示をはじめ、野点茶会やお香教室なども行われ、満開の桜とともに訪れる人を迎えています。



郷土が生んだ偉人 長塚節



菅笠にわらじという軽装での節の旅姿の像は、市内3カ所に設置されています。

没後100年 心に生き続ける地域の誇り

長塚節は1879（明治12）年に石下町国生（国生）の豪農の長男として誕生し、3歳の頃には百人一首を暗唱するなど才能を発揮。恵まれた家庭環境にありながら、病弱のため中学を中退し、療養生活を送る中で正岡子規に出会い、文学的才能を開花させました。

菅笠、わらじという軽装で全国を旅し、

自然や植物をこよなく愛した節ならではの写実的な歌を数多く残しました。小説「土」は、当時の農村を写実的に描写し、日本近代文学の傑作と評され、代表作となりました。節は36歳の時、旅先で生涯を閉じ、2015（平成27）年に没後100年を迎えました。生家には、直筆の書などが展示され、ガイドによる案内が好評です。



本市では、旧石下町時代から行政と市民が一体となって、故郷の文人・長塚節を顕彰し、その偉業を後世に伝えるため、さまざまな取り組みを行ってきました。「長塚節文学賞」もその一環として、1996（平成8）年から始まりました。

長塚節は私が短歌を始めた小学6年生の頃からの憧れであり、ずっと研究を続ける生きがいになっています。今の目標は、小・中学生にも理解しやすい「土」の執筆と、長塚節と3人の女性についてまとめることです。



案内ガイド
長塚節研究会常任理事
飯塚知子さん

開業100年 関東鉄道常総線



常総線は関東鉄道(本社土浦市)が運行する鉄道路線の一つ。営業区間は取手ー下館駅間51.1㎞で、うち複線区間は取手ー水海道駅間17.5㎞。全25駅中14駅が無人。1913(大正2)年開業で、2013(平成25)年11月1日に100年を迎えました。全線非電化で、年間900万人以上の輸送人員数を維持しています。戦前は砂利の運搬なども行い、1974(昭和49)年まで貨物を取り扱いました。左は1965～70(昭和40～45)年ごろの水海道駅

住民の皆さまの移動手段として利用していただくだけでなく、さらに親しみをもって活用していただけるよう、ビール列車やプライダルトレインなど楽しいイベントも企画しています。ぜひご利用下さい!



水海道駅管区駅長
宮田隆一さん

地域と共に歩み100年 次の100年へ新たな歴史を刻み続ける

市の東部を南北に縦断し、田園地帯の中を走る関東鉄道常総線の姿は、地域住民だけでなく、多くの鉄道ファンを魅了しています。また、行政や民間団体と共に、「関鉄ビール列車」、「駅からウォーク」など多彩なイベントを企画するなど、地域に密着した鉄道として沿線地域の活性化に貢献しています。「お客さまとの会話やふれあいがあり、地域の皆さまとさまざまな関わりを持てるのが一番の喜びです」と話す水海

道駅長の宮田隆一さんの言葉からも常総線が住民に愛され、共に歩んできたことが伝わってきます。

「町内に駅があることが私たちの誇りです」と話すのは「北水海道ふれあい会」の皆さん。ボランティアで北水海道駅前の花壇の整備を続け、駅周辺を花で明るくしています。開業から100年を迎えた常総線。今後も地域住民と共に歩み続けることでしょう。



北水海道ふれあい会の皆さん

200年続く伝統の技「大塚戸の綱火」



大塚戸の綱火
葛城流
県指定無形民俗文化財

大塚戸の綱火は一言主神社の奉納行事として永く伝承されてきましたが、1947(昭和22)年の開催を最後に一時中断。その後、1969(昭和44)年に結成された大塚戸芸能保存会によって一言主神社秋季例大祭(9月13日)の奉納行事として伝承されています

伝統を守り続けて200年 地域の誇りを後世につなぐ

大塚戸の綱火は地域が誇る貴重な伝統芸能です。地域の結びつきやシンボルとして末長く継承していきたいですね。今後は若い人の育成に力を注いでいきたいと思っています。

大塚戸芸能保存会
事務局長 横島 充さん
会長 横島 進さん

「一言願えば、良いことにつけ、良からぬことにつけ、よく聞き分けて御利益を授けてくれる神」と言われ、万能神として広く信仰を集める一言主神社(大塚戸町)。9月には秋季例大祭として例祭と奉祝祭が開催され、奉祝祭に行われるのが「大塚戸の綱火」です。綱火は三番叟、仕掛け万燈、当日の芸題の3部で行われ、保存会のメンバーによって、8月の第1日曜日から約

1か月をかけて準備されます。さまざまな仕掛けが施されたあやつり人形はメンバーの手作り。当日は7人が力を合わせ人形を操作するため、息が合わないとスムーズな動きができないとあって練習にも余念がありません。保存会のメンバーは30代から80代までの約30人。地域の誇り・綱火を保存し、後世に伝えるため、一丸となっています。

